

「動物用医薬品」  
胆汁酸製剤

# ウルソ<sup>®</sup>-10%

ウルソ-10%は、家畜の各種肝機能障害の治療に有効な胆汁酸の一種である、ウルソデオキシコール酸を主成分としています。

## 【成分・分量】

有効成分：1 g 中

日局ウルソデオキシコール酸…………… 100mg

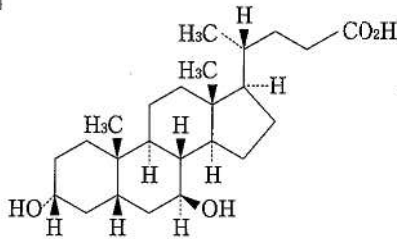
## 【製剤の性状】

白色又はほとんど白色の粉末でにおいはなく、味は苦い。

## 【有効成分の性状】

白色の結晶又は粉末で、においはなく、味は苦い。エタノール(95)、エタノール(99.5)又は酢酸(100)に溶けやすく、クロロホルムに溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。水酸化ナトリウム試液に溶ける。

## 【構造式】



分子式：C<sub>24</sub>H<sub>40</sub>O<sub>4</sub>

分子量：392.57

一般名：ursodeoxycholic acid

化学名：3α,7β-dihydroxy-5β-cholan-24-oic acid

## 【薬理作用】

### 1) 利胆作用<sup>1)</sup>

各種用量(1.25~20.0mg/kg)のウルソデオキシコール酸をイヌに静注したところ、用量に比例して肝胆汁量の分泌促進が認められた。

### 2) 肝血流量の増加作用<sup>2)</sup>

ウルソデオキシコール酸10mg/kgをイヌに静注したところ、肝血流量の増加が認められた。

### 3) 肝グリコーゲン蓄積作用<sup>3)</sup>

アロキサン家兎にウルソデオキシコール酸を0.4g/kg経口投与したところ、肝グリコーゲンの増加、血糖値の低下が認められた。

### 4) 胃液分泌促進作用<sup>4)</sup>

ウルソデオキシコール酸3 mg/kgをラットに筋肉注射したところ、対照に比して胃液分泌量が68.3%増加し、また胃液酸度の増加が認められた。

### 5) 膵液分泌促進作用<sup>5)</sup>

ウルソデオキシコール酸をイヌの十二指腸内に投与したところ、基礎流出量に比し膵液量、酵素活性、重炭酸塩濃度の増加が認められた。

### 6) 解毒作用<sup>6)</sup>

マウスに硝酸ストリキニーネを投与し、ウルソデオキシコール酸投与群と対照群とを比較すると、ウルソデオキシコール酸投与群は硝酸ストリキニーネに対するLD<sub>50</sub>値を3倍以上に拡大した。

### 7) 血清コレステロール低下作用<sup>7)</sup>

0.5%ウルソデオキシコール酸添加飼料で飼育したマウスでは、対照に比し血清コレステロール、肝コレステロールが低下した。

## 【毒性】

### 1) 急性毒性(LD<sub>50</sub>)<sup>8)</sup>

投与法	経口投与	皮下投与	腹腔内投与	静脈内投与	
ラット	♂ ♀	5 g/kg以上	2 g/kg以上	1,080mg/kg	310mg/kg
				890mg/kg	320mg/kg
マウス	♂ ♀	10g/kg以上	5,800mg/kg	1,200mg/kg	285mg/kg
				6,200mg/kg	1,250mg/kg

### 2) 慢性毒性<sup>9)</sup>

ウルソデオキシコール酸500mg/kgをラットに6カ月間経口投与したところ、毒性は検出されなかった。

### 3) 催奇毒性<sup>10)</sup>

ウルソデオキシコール酸300、4,000mg/kgをラットに妊娠第9日から14日まで、また300、

1,500mg/kgをマウスに妊娠第7日から12日まで経口投与したところ、いずれも催奇毒性は認められなかった。

#### 【効能・効果】

牛：ケトーシス、肝機能減退症

魚類：魚類の肝機能減退による発育障害の予防と治療

#### 【用法・用量】

牛：1頭当たりウルソデオキシコール酸として2～3g（本品ウルソ-10%として20～30g）を1日1回経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。

魚類：魚体重1kg当たり1日量ウルソデオキシコール酸として6～20mg（本品ウルソ-10%として、0.06～0.2g）を飼料に混ぜて連続投与する。

#### 【使用上の注意】

##### 一般的注意

1. 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
2. 本剤は効能・効果において定められた適応症の治療に使用すること。

##### 保管上の注意

1. 小児の手の届かないところに保管すること。
2. 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
3. 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

#### 【包装】

5kg（ポリ袋入り1kg×5袋）

#### 【主要文献】

- 1) 戸田安士他：基礎と臨床, **10**, 103 (1976)
- 2) 玉沢佳己：基礎と臨床, **9**, 2371 (1975)
- 3) 白川 芳：大阪市立大学医学雑誌, **9**, 4405 (1960)
- 4) 伊藤信也他：基礎と臨床, **10**, 24 (1976)
- 5) 原 泰寛他：福岡医誌, **65**, 933 (1974)
- 6) 久保木憲人他：薬学研究, **31**, 6, 29 (1959)
- 7) 中村治雄：日消会誌, **62**, 1105 (1965)
- 8) 細野仁一他：基礎と臨床, **9**, 3159 (1975)
- 9) 高橋日出彦他：基礎と臨床, **9**, 3209 (1975)
- 10) 高橋日出彦他：基礎と臨床, **9**, 3223 (1975)

製造販売元

**DSファーマアニマルヘルス株式会社**

大阪市中央区本町2-5-7

〔2014年1月 作成〕

B(1401)